

シラバス

開講期間	2022年5月～2023年7月（原則月2回計27回×3時間）
担当講師	大住敏之（但し、「生産管理」を代講する適任者は別途指名）
受講対象	神戸大学の理工系学部卒業生を主な対象にしているが、文系学部および他大学の卒業生も大いに歓迎（受講生の多様性を重視）
講義の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・経営の実践体系理論（MBAプログラムのコア科目に相当）を論じる。 ・その背景にある考え方： <ul style="list-style-type: none"> i) 現代の我々は「組織」という世界に住んでいる。あらゆる「組織」の運営には経済学・経営学的思考を必要としている。 ii) 経営学は、主として企業を研究対象としているが、実はあらゆる組織（役所・学校・病院・軍隊・美術館・自治会・NPO等）のオペレーションに有効。 iii) 実社会に出て10年もすると、エンジニアであっても、マネジャー的業務に直面、MBAプログラムの知見が必要になる。（特に戦略論、組織行動論、マーケティング、会計、ファイナンス） iv) 特定分野の専門性に加えて、経営全般にかかわる基礎能力を養うことにより、自分自身の多様性（Self-diversity）を目指す。 v) アメリカの有力ビジネス・スクールでは、学部時代に理工系を専攻した者が半数以上を占めている。卒業後、Engineering + MBAというバックグラウンドを生かし、経営の第一線で実績を挙げている。（日本企業は未だ生産現場一流、本社三流から脱却できていない） vi) 日本以外の先進諸国・新興諸国では経営人材に対し、世界標準の洗練されたテキストを使い実に効率的に経済・経営教育を行っている。偏狭な攘夷思想に捉われず、オーセンティックかつグローバル・スタンダードの理論体系をベースに講義を展開。 vii) 経営の実践体系理論は、リベラル・アーツや純粋理論ではない。また、一般的な経営書によくある精神論・根性論・経験論もしくは理論抜きハウツー・モノとは一線を画すもの。現実の経営を理論化・体系化したものなので汎用性と応用性に優れる。 viii) 経済学・経営学の全領域を扱う講義（経営学総論 or MOT）では、専門に特化した教員が入れ替わり立ち替わり登壇し、前後の脈絡

	<p>に關係無く自分の専門分野を講じるのが通例だが、(生産管理を除き)一人で担当するメリットを生かして俯瞰的・横断的視点に立ちながら相互関連性, 相互位置関係, 全体像を強調する.</p> <p>ix) 経済学・会計・ファイナンス理論を通奏低音とし, ビジネスの実践現場での有効性と耐久性に照らしながら, 経営理論の全構成分野を論じるところが “Blue ocean”.</p>
<p>講義の モットー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ “良い理論ほど実践的なものはない” (There is nothing so useful as a good theory. ; クルト・レビン) ・ 良い理論は, 自明でなく意外性があり, 学ぶことが楽しい. 常識と直感に基づく判断の過ちを正してくれる効能を有する. ・ 実践志向だが Theory-oriented
<p>受講資格・ 予備知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし, 政治・経済・経営・社会に対する知的好奇心のみ.
<p>講義 の 到達目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> i) 経済学・経営学のベースになっている基本的考え方, 実践に有用な代表的理論・概念を体系的に理解. 現実問題への適用法を体得. ii) 体系的に MBA コア科目のエッセンスを学ぶことにより, 量的・質的に最強の勉強法である「自学・自習・自省・能力」を身につける. iii) 現実の問題解決を論理思考で時間的・労力的に効率よく正しく行う能力. iv) 現実の諸課題が, 大学のカリキュラム別に分類されて存在しているわけではないし, 組織図の業務職掌を尊重して向かってくるわけでもない. マネジメントの全体観・鳥瞰図(海図; Chart)を持つことで, 組織を預かる人間にとって致命傷になる盲点(知識・経験・情報を持たない課題, 無自覚の弱点)を極小化するのが狙い. v) どのような事態でも, 自信を持って迅速に正しい方向に第一歩を踏み出し, 組織メンバーをリードすることができる. vi) 情報洪水の中で流されないための思考軸・プリンシプル・インテグリティを身につけるには正統理論(Good Theory)の理解とこれに立脚した, しっかりとした思考訓練(Discipline of good thinking)が不可欠.

<p>教 材</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目 50～60 ページの独自テキストを事前に配布 (MBA コア科目を網羅し理論的整合性の取れた市販の教科書は、残念だが存在せず) ・配布テキストの事前熟読 (リーディング・アサイメントーⅠ) ・巻末 P.7 の書籍を読みこむ (リーディング・アサイメントーⅡ) ・テキストをプロジェクターでスクリーンに映しながら、少人数ゼミナール形式で説明 (情報量が少なく正確性に欠けるので、パワーポイントは使用しない)
<p>講 義 方 法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ感染対策のため、Zoom 機能をフルに活用. ・六甲クラブの会議室をほぼ貸し切り状態で講義を開催するが、Zoom によるリモート出席も可能. ・講義内容を Zoom 録画配信するので事後 1 ヶ月間は自宅等で随時視聴可能. (当然ながら、双方向性のためにも事情が許す限り六甲クラブでの対面型出席 or Zoom リモート出席の方が望ましい). ・欠席を余儀なくされた受講生のための補講が Zoom 録画配信で不要になったので、これを Advanced Session にアップグレードし追加説明, 担当業務上の問題点を題材としたケース・スタディ, 受講生 or アルムナイ有志によるプレゼンテーション etc. の機会に活用. ・質問・意見は随時 OK, 自由闊達な双方向講義を目指す. ・グーグル・グループ活用により, クラス・メンバーを online でコネクト. 教室がバーチャルに常時存在している環境. ・カレンツ・イベント・レポートの提出; 講義で印象に残った理論, 心に響いた箇所, 取り上げたテーマに関連するご自身の経験や記事を新聞・雑誌から選び, その要約と見解をまとめ当該月末に提出 (受講生全員で共有し online 上で意見交換). ・講義時間は午後 7 時から 10 時まで. 六甲クラブ・スタッフのご厚意により夕食と Drink を提供 (時間の有効活用のため). ・既にお気付きのように, 1) 読み (Reading Assignment), 2) 聴き (Lecture), 3) 話し (Discussion), 4) 書き (CER Writing), 5) 飲食 (Meal & Drink) で五感をフルに使えば, 無理に暗記しなくても皆さんの頭脳には MBA コア科目がシステムティックに蓄積される. ・皆さんが慣れ親しんだ微温湯的雰囲気日本の大学の講義とは異なり, グローバル・スタンダードの講義スタイルを目指している. ワーク・ロードの構成比は; 予習 30 % + 講義 40 % + 復習 30 %. ・Teaching Assistant : Mr. 倉城弘典 (Ⅶ期生; Zoom 機能, デジタル機能, グーグル・グループ管理, アドバイザー役, 講義アーカイブ, その他を担当) ・Acting Teaching Assistant : Mr. 河井章 (Ⅷ期生; TA の補佐)

講義日程 & 内容	<p>1. イントロダクション (I) : -----5月25日 (水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 開講式 & 自己紹介 ② オリエンテーション (Zoom 機能・講義方針・プロトコール) <p>2. イントロダクション (II) : -----6月15日 (水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ ビジネス上の持論 ④ MBA プログラム <p>3. イントロダクション (III) : -----7月13日 (水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤ 人口動態論 (デモグラフィック・オーナス問題・タイムマシン経営) ⑥ 世界のマグニチュード理解 ⑦ 論理思考による問題解決手法 <p style="text-align: center;">(注 ; 「イントロダクション」のみ Advanced Session なし)</p> <p>4. ビジネス経済学 (I) -----8月17日 (水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 経済学の基本コンセプト ② 経済モデル ③ 経済システム ④ 経済体制の歴史的展望 <p>Advanced Session -----8月24日 (水)</p> <p>5. ビジネス経済学 (II) -----9月14日 (水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤ 産業組織論 ⑥ 生産コストの理論 ⑦ その他経営に重要な概念・理論 ⑧ 情報の非対称性・ゲーム理論 <p>Advanced Session -----9月21日 (水)</p> <p>6. 経営学 (I) -----10月12日 (水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 経営学とは ② 会社組織 ③ 経営学の系譜 <p>Advanced Session -----10月19日 (水)</p> <p style="text-align: right;">《to be continued》</p>
-----------------	---

	<p>7. 経営学 (Ⅱ) -----11月16日 (水)</p> <p>④ 経営戦略論</p> <p>⑤ 組織行動論 (人財マネジメント・リーダーシップ論)</p> <p>Advanced Session -----11月24日 (木)</p> <p>8. 経営学 (Ⅲ) : -----12月14日 (水)</p> <p>⑥ ブルー・オーシャン戦略</p> <p>⑦ 一時的競争優位戦略</p> <p>⑧ リスク・マネジメント</p> <p>Advanced Session -----12月21日 (水)</p> <p>9. マーケティング論 (Ⅰ) : -----23年1月11日 (水)</p> <p>① マーケティングの基本コンセプト</p> <p>② マーケティング戦略・戦術</p> <p>Advanced Session -----1月18日 (水)</p> <p>10. マーケティング論 (Ⅱ) : -----2月15日 (水)</p> <p>③ サービス・マーケティング</p> <p>④ デジタル時代のマーケティング</p> <p>⑤ ケース (小企業の商品開発事例)</p> <p>Advanced Session -----2月22日 (水)</p> <p>11. 製品開発 & 組織的知識創造 : -----3月15日 (水)</p> <p>① 製品開発の本質</p> <p>② 製品開発とイノベーション</p> <p>③ 製品開発プロセス</p> <p>④ 組織的知識創造論</p> <p>Advanced Session -----3月22日 (水)</p> <p>12. 会計学 : -----4月12日 (水)</p> <p>① 会計の基本コンセプト</p> <p>② 会計原則・基準</p> <p>③ 財務諸表</p> <p>④ 財務分析</p> <p>⑤ (ケース) 会計構造・プロセスの一体理解</p> <p>Advanced Session -----4月19日 (水)</p>
--	---

	<p>13. ファイナンスの基礎理論 (I) : -----5月10日 (水)</p> <p>① ファイナンスの基本コンセプト</p> <p>② DCF メソッド</p> <p>③ 投資プロジェクト評価方法</p> <p>Advanced Session-----5月17日 (水)</p> <p>14. ファイナンスの基礎理論 (II) : -----6月14日 (水)</p> <p>④ リスクと不確実性</p> <p>⑤ 企業価値評価方法 (CAPM, β, WACC, EVA)</p> <p>⑥ ファイナンス理論上の留意事項</p> <p>Advanced Session-----6月21日 (水)</p> <p>15. 生産管理 & サミングアップ: -----7月12日 (水)</p> <p>① 生産管理</p> <p>② MBA コア科目のエッセンス</p> <p>③ むすびにかえて</p> <p>Advanced Session-----7月19日 (木)</p>
<p>そ の 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生同志の議論・意見交換における率直性・闊達性を維持するため、「秘密保持誓約書」を提出. ・Household work を担う月間級長を輪番で務めてもらう。 コスト・ミニマムを旨とし、学務・雑務は受講生の自助・自治・自主運営が原則. ・後日「自己紹介カード」を提出. 受講生同志の親睦を深めることを最重要視している. ・第I期～第VIII期生で構成するアルムナイ組織 (掬星会)メンバー (約200名) との交流. ・フィールド・サーベイを計画； <ul style="list-style-type: none"> i) JFE 千葉製鉄所見学 ii) その他首都圏の企業見学 iii) 会社保養所を活用した合宿

(注) シラバスは、受講生の皆さんと先生役の僕との権利・義務を定めた**双務契約**です。僕は皆さんへのコミットメントを律義に順守しますので、皆さんも**契約履行を最優先**にしてください。提出書類の期限厳守とメールに対するアジャイル・レスポンスにも留意。

リーディング・アサイメントーII

下記書籍を購入のうえ，期日までに読んでおいてください。講義中に推薦する参考図書は，事後に読んでいただければ結構です。講義前に配布するテキストがリーディング・アサイメントーIで，事前の精読が必須です。

1. 『「超」集中法』・野口悠紀雄著・講談社現代新書刊-----7月末
2. 『原因と結果の経済学』・中室牧子&津川友介著・ダイヤモンド社刊-----9月末
3. 『マネジャーの実像』・H. ミンツバーグ著・日経 BP 社刊-----11月末
4. 『失敗の本質—日本軍の組織論的研究—』
・野中郁次郎他著・中公文庫刊-----23年2月末
5. 『21世紀の啓蒙—理性，科学，ヒューマニズム，進歩』
・ステイブン・ピンカー著・草思社刊-----5月末

(余裕があれば下記も，ミニ MBA 塾は文理融合型ですので，文系学部卒の方は是非)

6. 『今この世界を生きているあなたのためのサイエンス』 I & II
—Physics for future presidents: the science behind the headlines—
・リチャード・ムラー著・楽工社刊
7. 『ブラック・スワン』上・下 and / or 『反脆弱性』上・下
・ナシーム・タレブ著・ダイヤモンド社刊